



平成29年度 全国学力・学習状況調査

長野市の結果分析と
学力向上に向けて

平成29年11月

長野市教育委員会

目 次

本年度の調査概要	1
I 小学校	2
1 教科・調査別結果の概要	
(1) 小学校国語 A	
(2) 小学校国語 B	
(3) 小学校算数 A	
(4) 小学校算数 B	
(5) 平均正答率と本市の結果推移	
2 児童質問紙調査の結果から	4
(1) 話し合う活動	
(2) 探究的な学習	
(3) めあて・ねらい	
II 中学校	6
1 教科・調査別結果の概要	
(1) 中学校国語 A	
(2) 中学校国語 B	
(3) 中学校数学 A	
(4) 中学校数学 B	
(5) 平均正答率と市の結果推移	
2 生徒質問紙調査の結果から	8
(1) 話し合う活動	
(2) 探究的な学習	
(3) めあて・ねらい	
III 学習習慣・生活習慣	10
IV 小中連携の推進	12
V 学習の基となる児童生徒の意欲・態度	13
VI まとめ	14

本年度の調査概要

- (1) 実施日 平成 29 年 4 月 18 日 (火)
- (2) 教科に関する調査
 - ・ 小学校 国語 A・算数 A (主に「知識」に関する問題)
 - 国語 B・算数 B (主に「活用」に関する問題)
 - ・ 中学校 国語 A・数学 A (主に「知識」に関する問題)
 - 国語 B・数学 B (主に「活用」に関する問題)
- (3) 生活習慣や学校環境に関する質問紙調査
 - ① 児童生徒に対する調査
 - ② 学校に対する調査
- (4) 調査対象数
 - 市立小学校 6 年生 54 校 3,137 人
 - 市立中学校 3 年生 24 校 3,179 人

I 小学校

○全調査で、全国平均と同じ、または上回る結果となりました（4ページ参照）。正答率分布を見ると、正答率が40%以下の児童の割合が低く、80%以上の児童の割合が全国と同じ、または高い傾向が見られます。

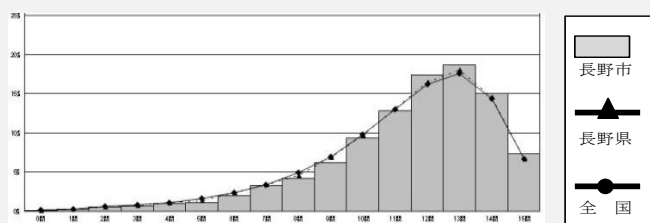
○国語B、算数Bの領域・観点・問題形式別正答率の結果を見ると、記述式の問題について、指導改善が必要です。

1 教科・調査別結果の概要

(1) 小学校国語 A問題（知識に関する問題）

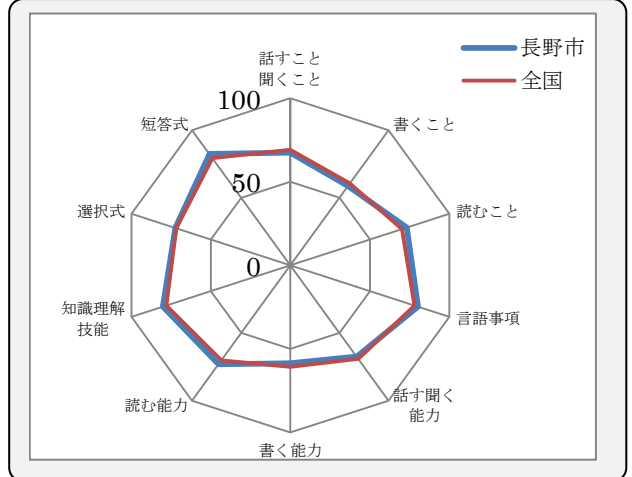
正答数分布

学力の分布は、正答数の多い側に集中した山型である。



- 正答率40%以下（0～6問正解）の児童の割合
全国 7.0% 長野市 5.6%
- 正答率80%以上（12～15問正解）の児童の割合
全国 54.9% 長野市 58.4%

領域・観点・問題形式別グラフ



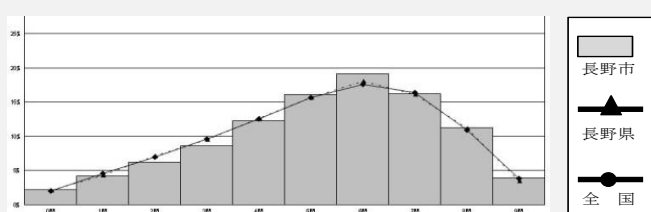
領域・観点・問題形式別の結果

- ◇「読むこと」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」では、全国の平均正答率を上回った。特に漢字の読み書きの正答率が1～6ポイント高くなった。
- ◆「話すこと・聞くこと」「書くこと」「話す・聞く能力」「書く能力」について全国の平均正答率を下回った。

(2) 小学校国語 B問題（活用に関する問題）

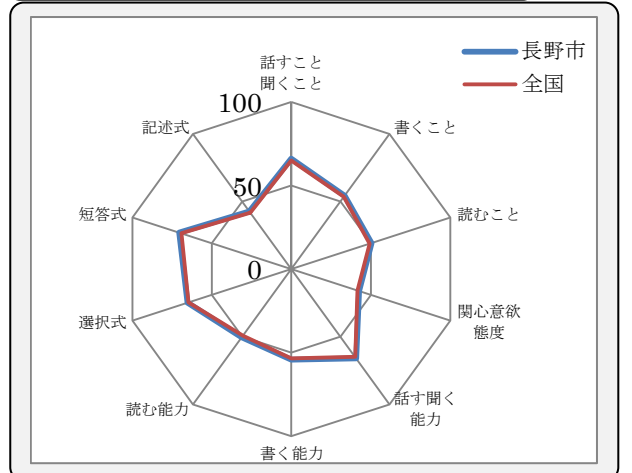
正答数分布

学力の分布は、正答数の多い側に集中した山型である。



- 正答率40%以下（0～3問正解）の児童の割合
全国 23.2% 長野市 21.2%
- 正答率80%以上（8～9問正解）の児童の割合
全国 14.7% 長野市 15.2%

領域・観点・問題形式別グラフ



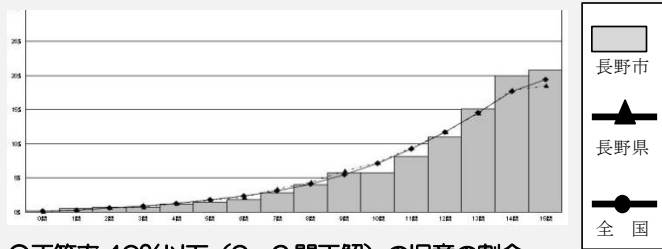
領域・観点・問題形式別の結果

- ◇すべての領域や観点、問題形式で、全国の平均正答率を上回った。
- ◆領域・観点・問題形式別グラフ全体のバランスで見ると、全国は上回るものの「記述式」の正答率が低い。

(3) 小学校算数 A問題 (知識に関する問題)

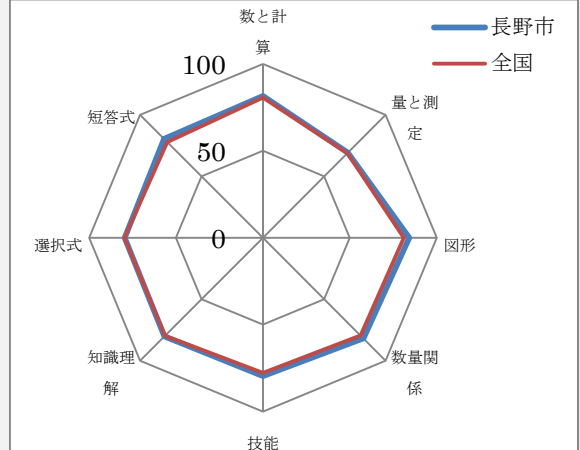
正答数分布

学力の分布は、正答数の多い側に集中した山型である。



- 正答率 40%以下 (0~6 問正解) の児童の割合
全国 7.5% 長野市 6.6%
- 正答率 80%以上 (12~15 問正解) の児童の割合は、
全国 63.4% 長野市 66.9%

領域・観点・問題形式別グラフ



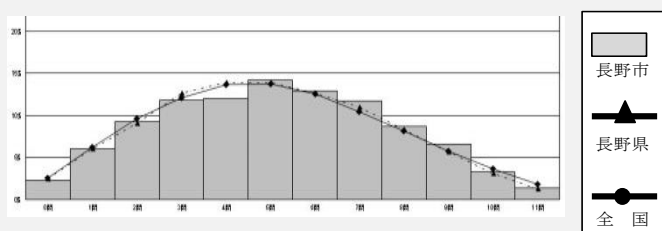
領域・観点・問題形式別の結果

- ◇すべての領域や観点、問題形式で、全国の平均正答率を上回った。
- ◆数直線の問題や、 123×52 、 $10.3 + 4$ の計算問題の正答率は、全国を下回った。

(4) 小学校算数 B問題 (活用に関する問題)

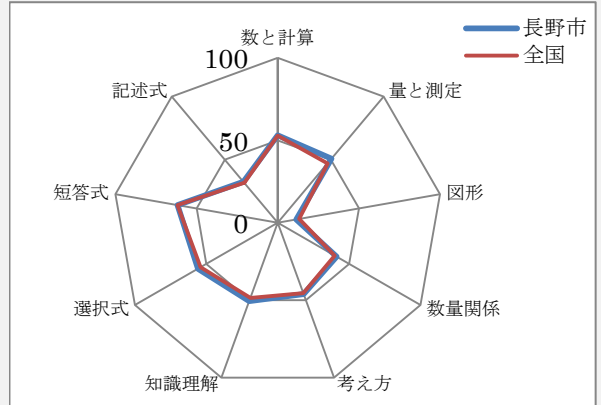
正答数分布

学力の分布は、中央値を中心にした山型である。



- 正答率 40%以下 (0~4 問正解) の児童の割合
全国 44.1% 長野市 41.3%
- 正答率 80%以上 (9~11 問正解) の児童の割合
全国 11.3% 長野市 11.3%

領域・観点・問題形式別グラフ



領域・観点・問題形式別の結果

- ◇「図形」以外の領域や観点、問題形式で、全国の平均正答率を上回った。
- ◆領域・観点・問題形式別グラフ全体のバランスで見ると、全国は上回るものの「記述式」の正答率が低い。

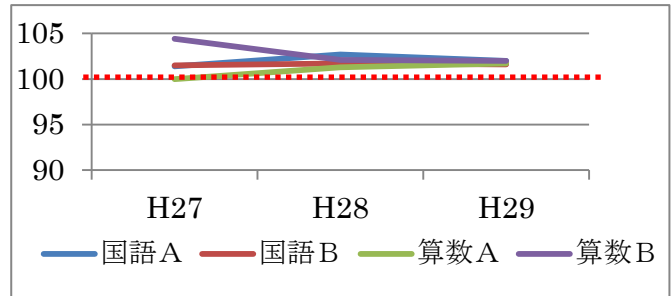
(5) 平均正答率と本市の結果推移

本市小学生の正答率 (%) と全国との差

	長野市	長野県	全国	全国との差
国語A	76	75	75	+1
国語B	58	57	58	0
算数A	80	78	79	+1
算数B	47	46	46	+1

※ 赤字 全国と同じ、または上回った数値

全国の正答率を 100 とした場合の、本市小学生の結果の推移



※ 上記のグラフは、長野市、全国とも小数第一位までの正答率の値をもとに計算しています。

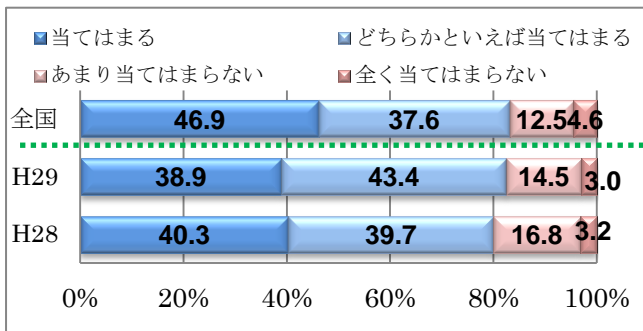
2 児童質問紙調査の結果から

(1) 話し合う活動

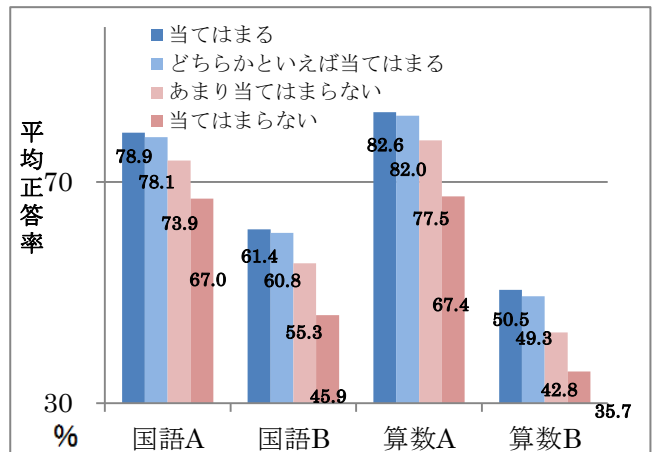
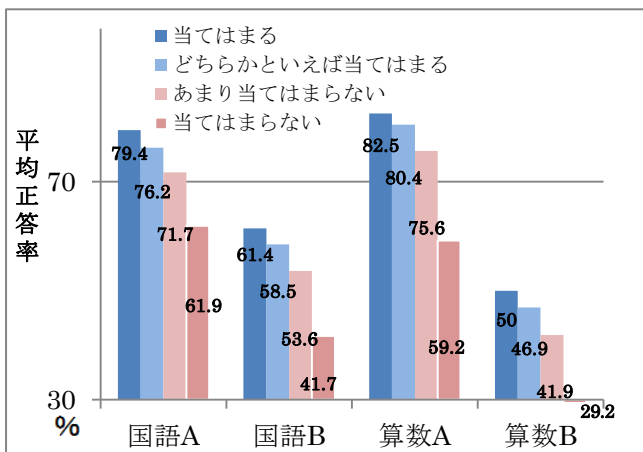
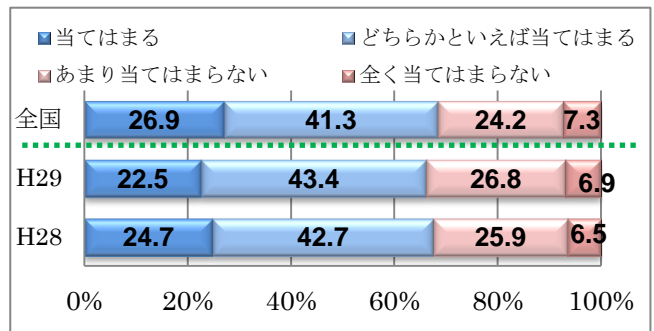
※ グラフでは、無回答分や四捨五入による表示等の関係で、合計が必ずしも 100%にならない場合があります。

○どちらの質問についても肯定的な回答をした児童の割合が全国をわずかに下回っています。
○クロス集計の結果を見ると、①と②の質問に肯定的な回答をした児童生徒ほど、学力調査の平均正答率が高くなる傾向が見られるので、話し合う活動を充実させていく必要があります。

① 授業では、学級の友達の間で、話し合う活動をよく行っていたと思いますか。(H28~29経年変化)



② 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていると思いますか。(H28~29経年変化)

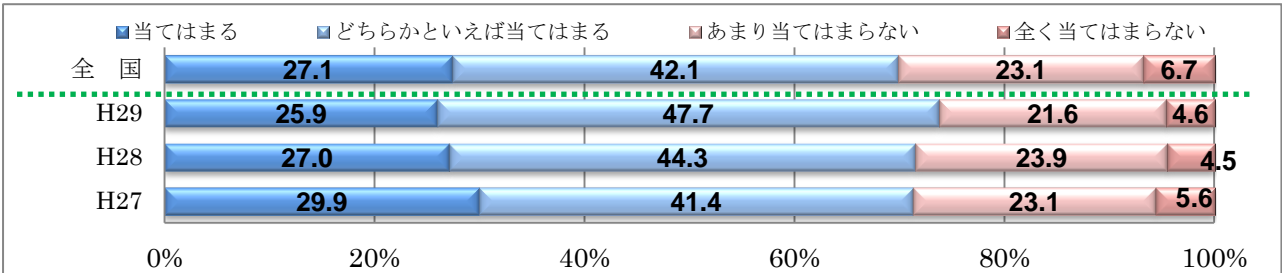


(2) 探究的な学習

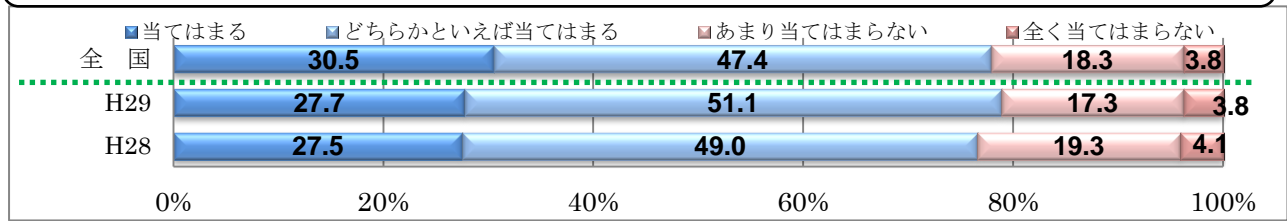
※ 4ページの①、②の質問のように、クロス集計で肯定的な回答と平均正答率の高さに相関が見られた質問を選び出し、経年のグラフで表しました。

○クロス集計では、「自分たちで立てた課題」に主体的に取り組むほど、活用する力を問うB問題で、肯定的な回答をした児童の正答率が高くなる傾向がありました。③と④の質問について肯定的な回答をした児童の割合は全国を上回り、探究的な学習に主体的に取り組んでいたことがわかります。

③ 学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決のために情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか。(H27～29経年変化)



④ 先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか。(H28～29経年変化)

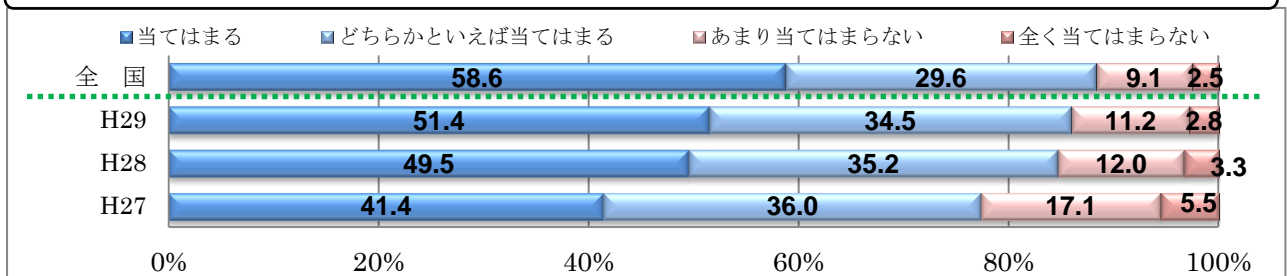


(3) めあて・ねらい

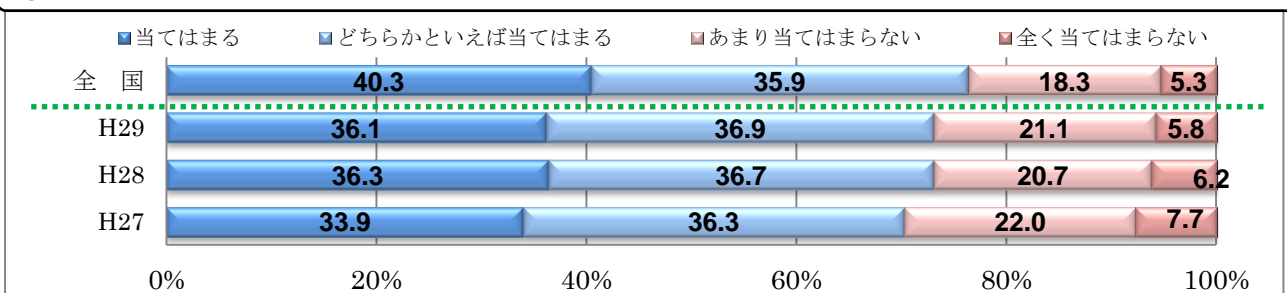
○27年度と比べ、肯定的な回答をした児童の割合が増えています。授業の目標設定や学習内容のまとめ・振り返りがしっかりと行われるようになり、授業改善が進んできていることがわかります。

○全国と比較すると、⑤と⑥の質問とも、肯定的な回答の割合が全国を下回っています。特に「めあて・ねらいを示す」ことについては、さらに授業で取り組む必要があります。

⑤ 授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか。(H27～29経年変化)



⑥ 授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。(H27～29経年変化)



II 中学校

○国語Aで全国平均を上回りました。国語B、数学A、Bでは全国平均を下回りましたが、昨年度と比べて改善傾向が見られます（8ページ参照）。

○数学では、正答率40%以下の生徒が、全国より約2～4ポイント多くなっています。

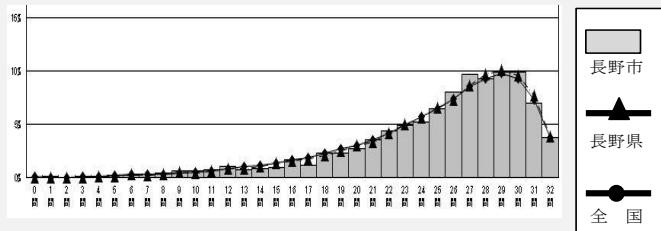
○国語B、数学Bの領域・観点・問題形式別正答率の結果を見ると、小学校と同じく、「記述式」の問題について、指導改善が必要です。

1 教科・調査別結果の概要

(1) 中学校国語 A問題（知識に関する問題）

正答数分布

学力の分布は、正答数の多い側に集中した山型である。

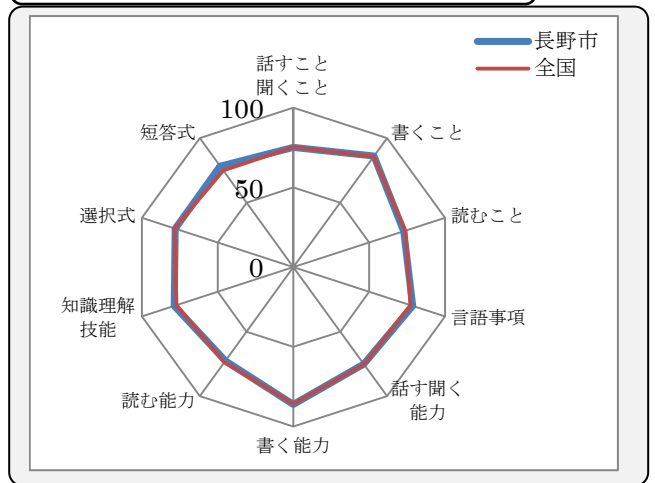


- 正答率40%以下（0～12問正解）の生徒の割合
全国 4.2% 長野市 4.8%
- 正答率80%以上（26～32問正解）の生徒の割合
全国 55.4% 長野市 57.6%

領域・観点・問題形式別の結果

- ◇「言語事項」「言語についての知識・理解・技能」「短答式」の問題は、全国の平均正答率を上回った。
- ◆「話すこと・聞くこと」「読むこと」「話す・聞く能力」「読む能力」について、全国の平均正答率を下回った。

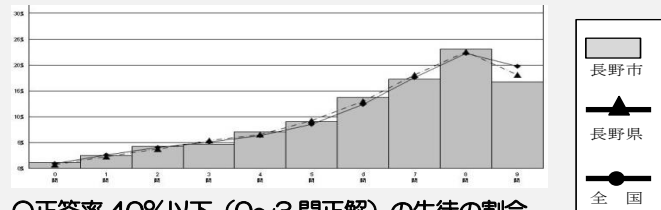
領域・観点・問題形式別グラフ



(2) 中学校国語 B問題（活用に関する問題）

正答数分布

学力の分布は、正答数の多い側に集中した山型である。

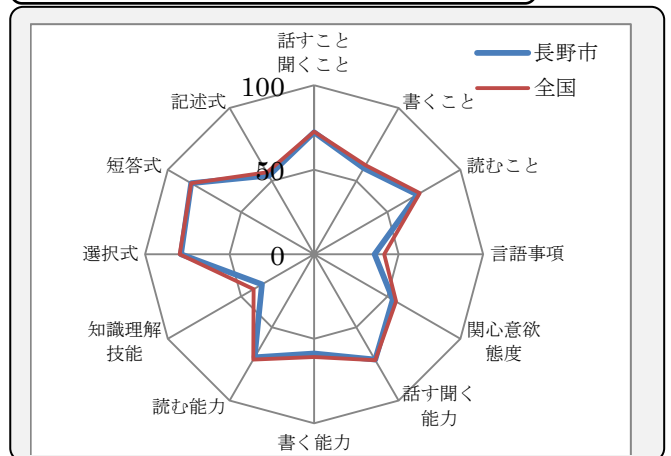


- 正答率40%以下（0～3問正解）の生徒の割合
全国 12.8% 長野市 12.7%
- 正答率80%以上（8～9問正解）の生徒の割合
全国 42.1% 長野市 39.9%

領域・観点・問題形式別の結果

- ◆すべての領域や観点、問題形式で、全国の平均正答率を下回った。
- ◆領域・観点・問題形式別グラフ全体のバランスで見ると、「言語事項」「言語についての知識・理解・技能」「記述式」の問題の正答率が低くなった。

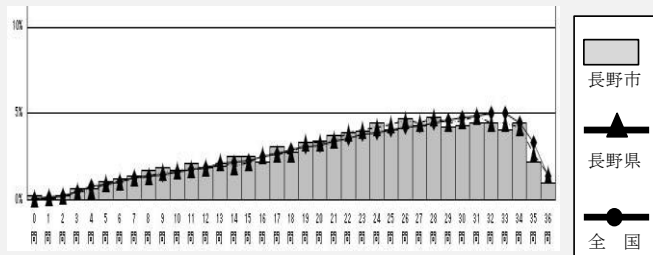
領域・観点・問題形式別グラフ



(3) 中学校数学 A問題 (知識に関する問題)

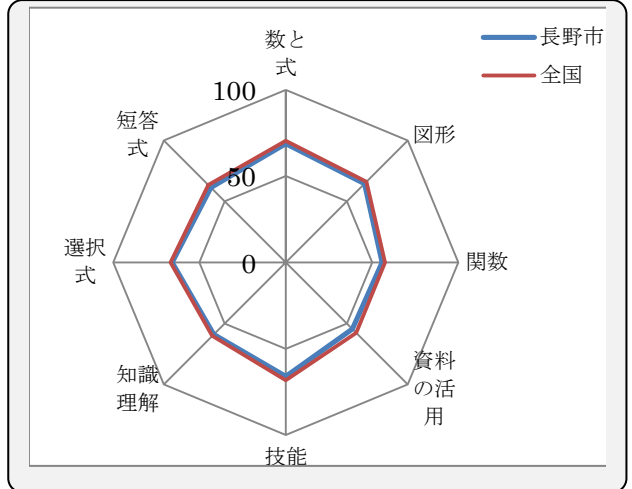
正答数分布

学力の分布は、正答数の多い側に集中した山型である。



- 正答率 40%以下 (0~14 問正解) の生徒の割合
全国 17.7% 長野市 19.6%
- 正答率 80%以上 (29~36 問正解) の生徒の割合
全国 33.5% 長野市 29.3%

領域・観点・問題形式別グラフ



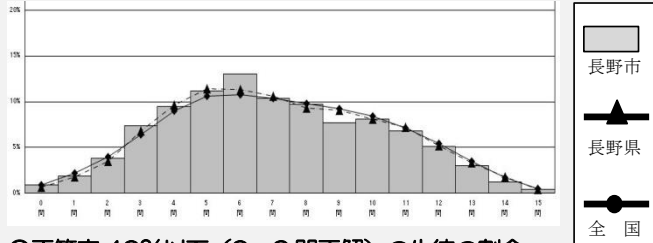
領域・観点・問題形式別の結果

- ◆すべての領域、観点、問題形式で、全国の平均正答率を下回った。
- ◆全国と最も正答率に差があった問題は、円柱の体積を求める「短答式」の問題で、全国よりも 9.8 ポイント低かった。また、無解答率も全国と比べて、4 ポイントほど高かった。

(4) 中学校数学 B問題 (活用に関する問題)

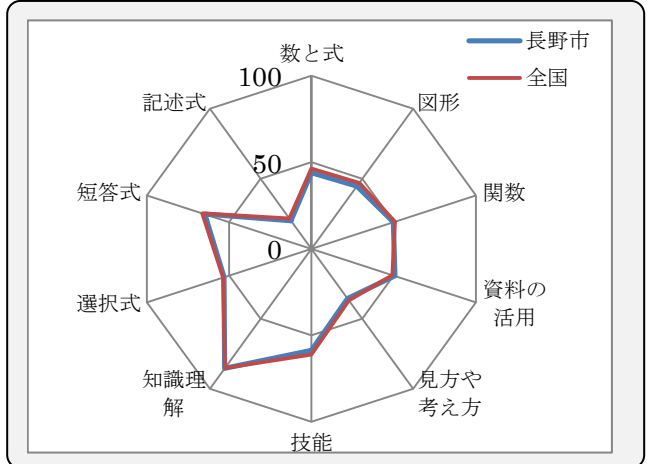
正答数分布

学力の分布は、正答数の少ない側に集中した山型である。



- 正答率 40%以下 (0~6 問正解) の生徒の割合
全国 43.9% 長野市 47.7%
- 正答率 80%以上 (12~15 問正解) の生徒の割合
全国 11.1% 長野市 9.7%

領域・観点・問題形式別グラフ



領域・観点・問題形式別の結果

- ◆すべての領域や観点、問題形式で、全国の平均正答率を下回った。
- ◆領域・観点・問題形式別グラフ全体のバランスで見ると、「数学的な見方や考え方」「記述式」の問題の正答率が低くなった。

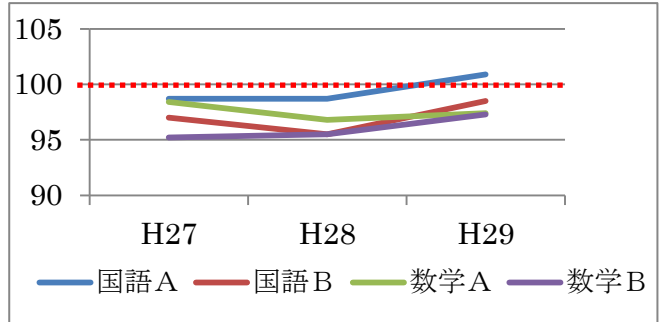
(5) 平均正答率と本市の結果推移

本市中学生の正答率 (%) と全国との差

	長野市	長野県	全国	全国との差
国語A	78	78	77	+1
国語B	71	72	72	-1
数学A	63	64	65	-2
数学B	47	48	48	-1

※ 赤字 全国と同じ、または上回った数値

全国の正答率を 100 とした場合の、本市の結果の推移 (国語、数学)



※ 上記のグラフは、長野市、全国とも小数第一位までの正答率の値をもとに計算しています。

2 生徒質問紙調査の結果から

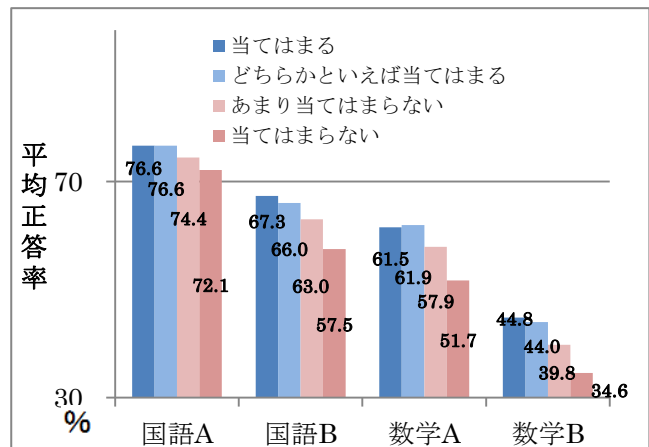
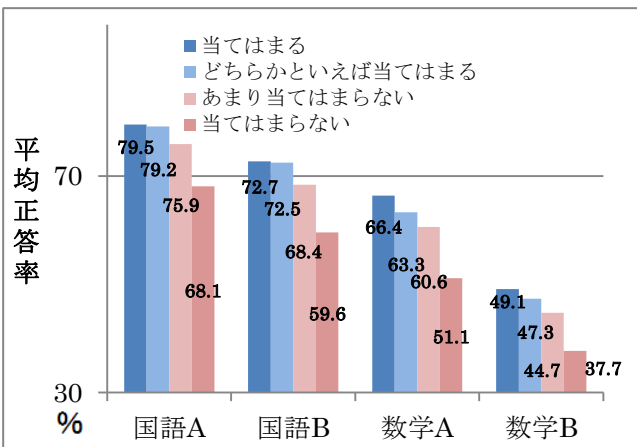
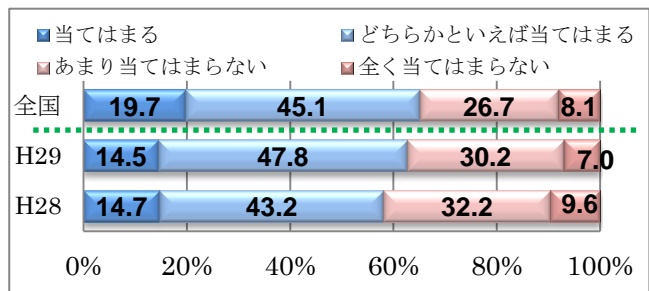
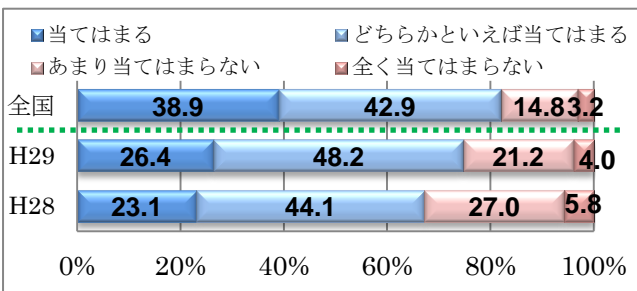
(1) 話し合う活動

※ グラフでは、無回答分や四捨五入による表示等の関係で、合計が必ずしも 100%にならない場合があります。

〇28年度と29年度を比べると、どちらの質問についても、肯定的な回答をした生徒の割合は増えてきていますが、依然、全国を下回っています。授業で目的を明確に話し合い活動の場を設定し、生徒が話し合うよさを感じることができるよう、指導を工夫する必要があります。

① 授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか。(H28~29経年変化)

② 生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていると思いますか。(H28~29経年変化)

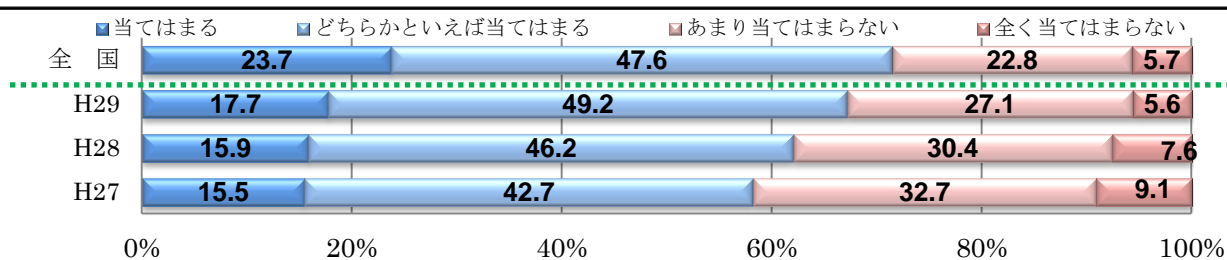


※ 8ページの①、②の質問のように、クロス集計で肯定的な回答と平均正答率の高さに相関が見られた質問を選び出し、経年のグラフで表しました。

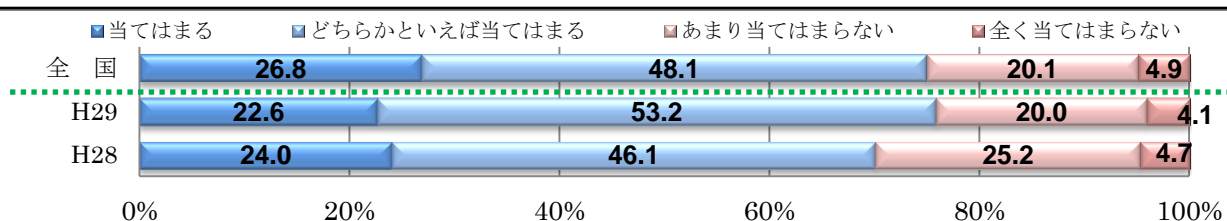
(2) 探究的な学習

○ ③と④の質問では、今年度「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的に回答した割合（グラフの青色部分）が、28年度より増えています。しかし③の質問に肯定的に回答した割合は、全国と比べ、やや下回っています。

③ 学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決のために情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか。（H27～29経年変化）



④ 先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか。（H28～29経年変化）

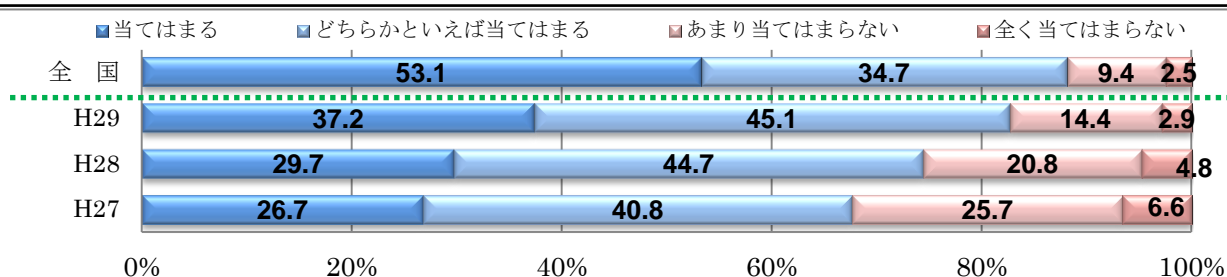


(3) めあて・ねらい

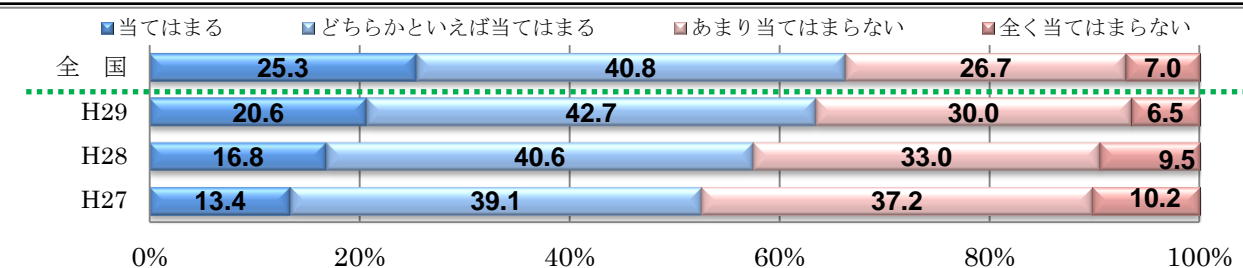
○ ⑤、⑥の質問の結果を前年度までと比べると、今年度は肯定的な回答をした生徒の割合が増えています。学習の目的を明確にし、学習内容のまとめや振り返りをしっかり行うという教員の授業改善の意識が、生徒にも伝わっていることがわかります。

○ ⑤の質問について、今年度「当てはまる」と回答した割合を全国と長野市で比べると、15.9ポイント差があり、改善の必要があります。（全国53.1%、市37.2%）。

⑤ 授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか。（H27～29経年変化）



⑥ 授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。（H27～29経年変化）



Ⅲ 学習習慣・生活習慣

○平成29年度 児童生徒質問紙調査から

(1) 家庭学習

赤字 全国と同じ、または上回った数値

○家庭で、平日1時間以上学習しているという項目に肯定的な回答をした児童・生徒の割合を見ると、全国平均を上回っています。

○今後は、家庭学習に予習・復習を取り入れるなど、家庭学習と授業をつなげていく必要があります。

肯定的評価から見た全国との比較	小学生			中学生		
	全国平均	長野市	差	全国平均	長野市	差
家で計画を立てて勉強している	64.5	63.7	▲0.8	51.5	50.6	▲0.9
学校の宿題をしている	96.9	95.7	▲1.2	89.5	92.2	2.7
授業の予習をしている	41.0	31.6	▲9.4	31.7	20.5	▲11.2
授業の復習をしている	53.8	47.2	▲6.6	50.5	51.4	0.9
普段、1時間以上学習している	64.4	65.0	0.6	69.6	73.8	4.2
土日、1時間以上学習している	57.3	64.2	6.9	69.4	80.2	10.8

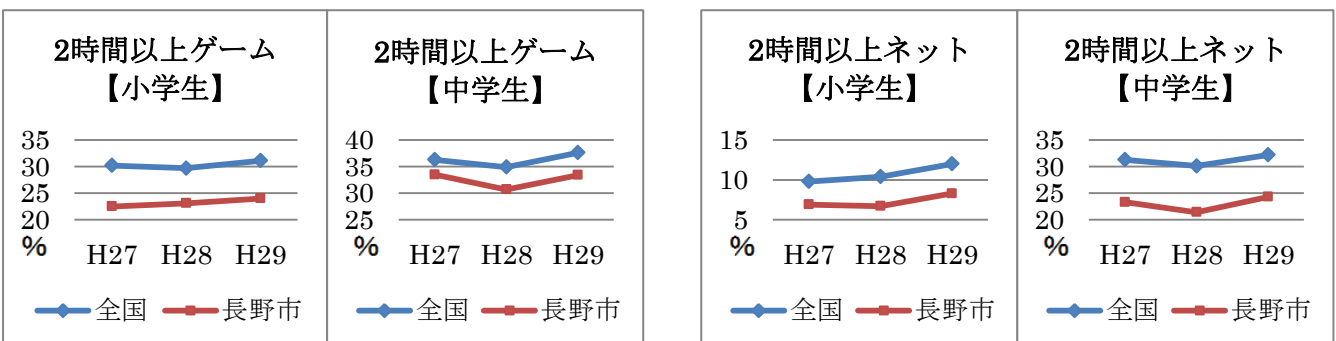
(2) 基本的な生活習慣

○長野市の児童生徒の基本的な生活習慣について見ると、肯定的な回答が全国と同程度、または全国を上回る結果となっています。

○「2時間以上ゲームやインターネットをする」と回答した児童生徒の割合は全国を下回りましたが、1日に2時間以上と解答する割合は、全国と同様にやや増加傾向にあります。家庭での時間の使い方やメディアとの接し方については、今後も家庭と連携して考えていく必要があります。

肯定的評価から見た全国との比較	小学生			中学生		
	全国平均	長野市	差	全国平均	長野市	差
朝食を毎日食べている	95.4	96.8	1.4	93.2	95.4	2.2
決まった時刻に起きている	91.2	92.4	1.2	92.4	93.0	0.6
決まった時刻に寝ている	79.8	81.1	1.3	75.6	77.7	2.1
2時間以上ゲームをする	31.1	24.0	7.1	37.6	33.4	4.2
2時間以上通話やインターネットをする	12.0	8.3	3.7	32.2	24.3	7.9

※ ゲームやインターネットの調査については、利用時間が2時間以上と答えた児童生徒の割合が少ないことを「全国を上回った」として表しています。



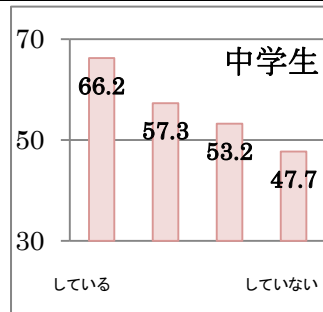
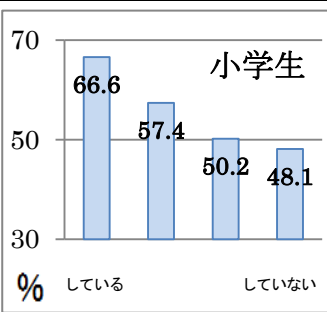
(3) 生活と学力の関係 (クロス集計)

○平成29年度 児童生徒質問紙調査から

※ クロス集計とは、2つの項目に注目して同時に集計する集計です。

○食事や就寝、起床時刻などの基本的な生活習慣やメディアと接する時間についての調査と、教科に関する調査の平均正答率をクロス集計で見ると、小・中学生ともに、生活習慣が確立している児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られます。

朝食を毎日食べていますか。

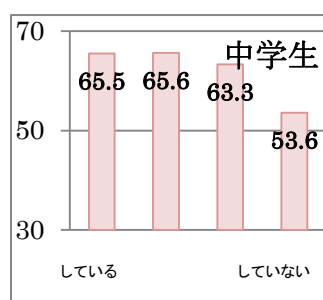
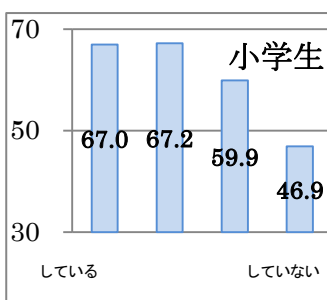


クロス集計の見方

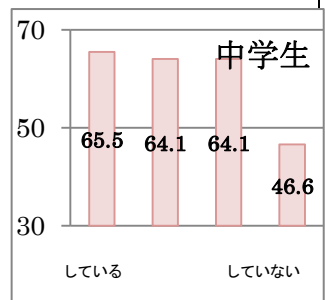
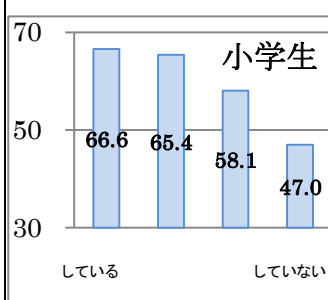
・縦軸は、全国学力・学習状況調査の平均正答率を、横軸には回答した項目を表します。下のグラフの場合、「している」と回答した生徒の平均正答率は61.8%で、「全くしていない」と回答した生徒の平均正答率は48.4%となります。



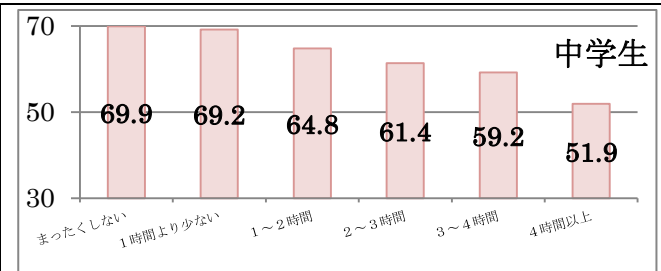
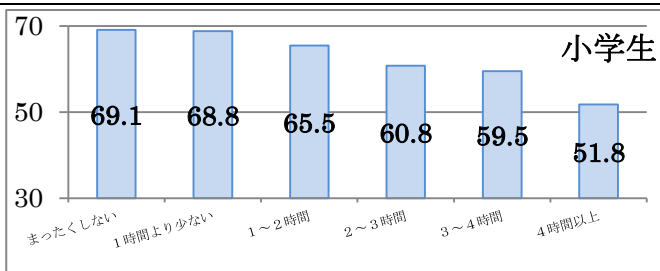
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。



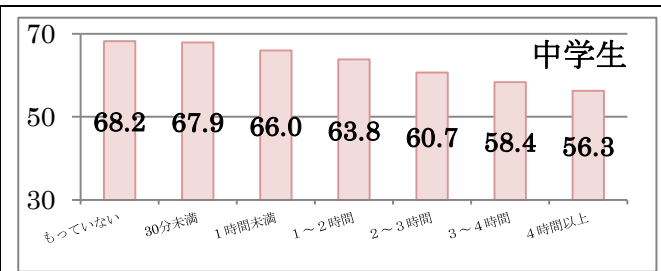
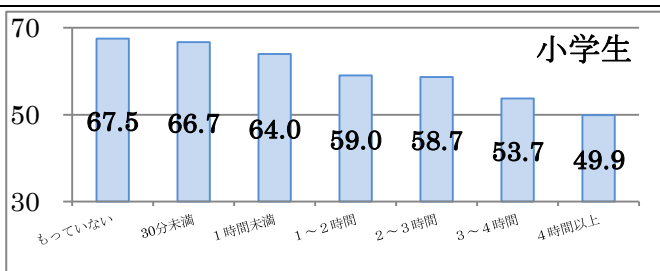
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。



平日、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか。



平日どれくらいの時間、携帯電話(スマホ)で通話やメール、インターネットをしますか。



IV 小中連携の推進

○平成 29年度 学校質問紙調査結果から

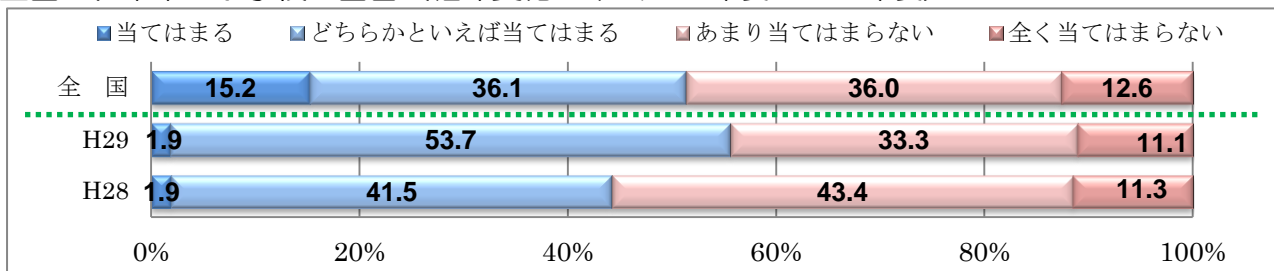
○28年度と比べると、特に中学校の肯定的な回答が増えています。

○しなのきプラン 29 で小中連携を推進し、連携推進ディレクターを配置したことや、市教育センターの学力向上研修講座で学校間連携について扱ってきた結果、近隣の学校や中学校区単位の学力向上研修や、家庭学習のあり方等の研修なども行われるようになってきました。

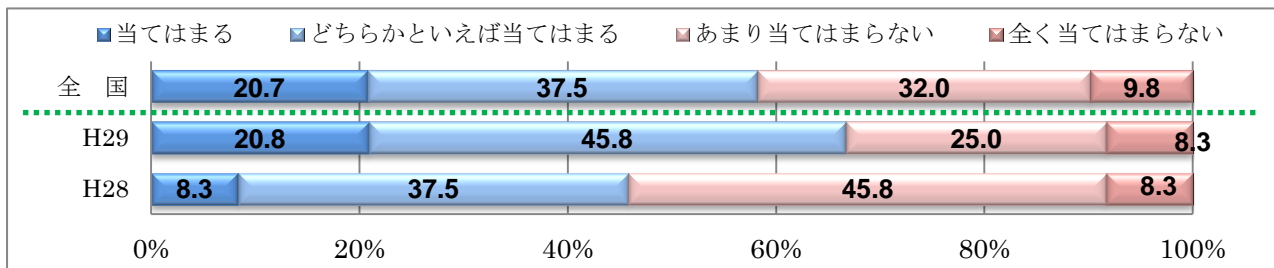
○今後、進学先の中学校や、同じ中学校に進学する小学校間で、互いの学校の教育目標を紹介し合う、授業を見合うなどの交流や連携を進めていくことが大切です。

前年度までに、近隣の小学校（中学校）と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか。

全国と、本市の小学校の回答（経年変化：平成 28 年度と 29 年度）

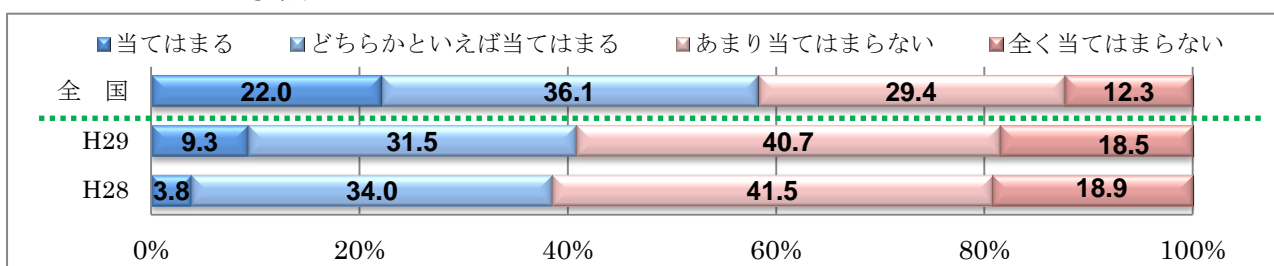


全国と、本市の中学校の回答（経年変化：平成 28 年度と 29 年度）

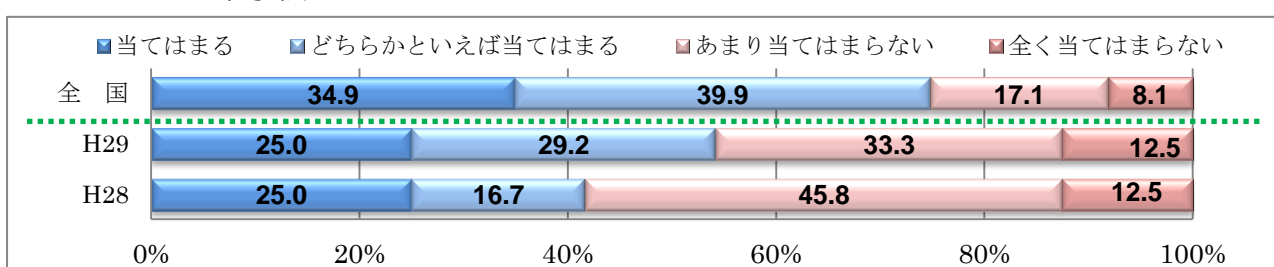


前年度までに、近隣等の小学校（中学校）と、教育目標を共有する取組を行いましたか。

全国と、本市の小学校の回答（経年変化：平成 28 年度と 29 年度）



全国と、本市の中学校の回答（経年変化：平成 28 年度と 29 年度）



V 学習の基となる児童生徒の意欲・態度

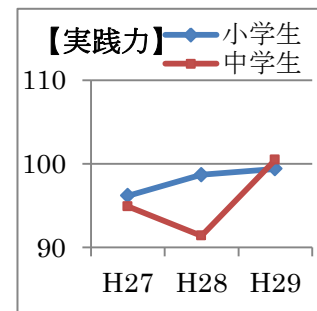
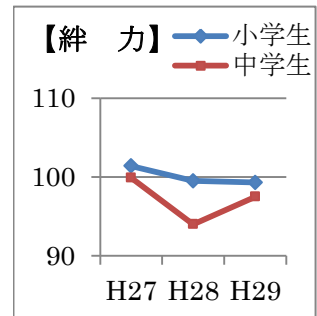
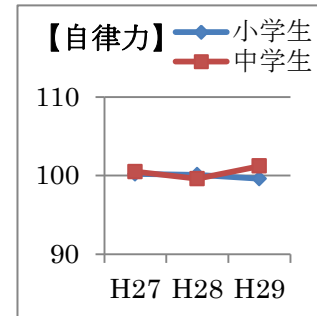
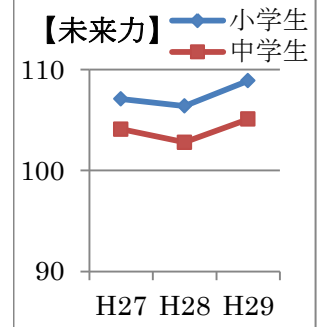
(長野市で大切にしている資質・能力)

- 「未来力」「自律力」「絆力」「実践力」の今年度平均を見ると、小学生、中学生ともに、ほぼ全国と大きな差がない結果となりました。
- 今年度の中学生では、4つの力すべてで昨年度を上回りました。課題としていた実践力でも、昨年度と比べ、9.1ポイント上昇しました。

赤字 全国と同じ、または上回った数値

全国=100

【未来力】 将来の夢や目標と見通しを持ち、努力を継続できる力	小学生	中学生
将来の夢や目標を持っていますか。	99.5	102.1
国語や算数(数学)の授業で学習したことは、将来、社会に出たとき役立つと思いますか。	100.7	96.6
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	99.6	100.4
今住んでいる地域の行事に参加していますか。	135.6	121.1
※ 数値は、全国平均を100としたときの肯定的回答の割合です。 今年度平均	108.9	105.1
【自律力】 規範意識を持ち、自分をコントロールする力	小学生	中学生
学校のきまり(規則)を守っていますか。	98.8	100.1
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。	101.3	100.6
家で、学校の宿題をしていますか。	98.8	103.0
今年度平均	99.6	101.2
【絆力】 他者を尊重し、積極的に人間関係を築こうとする力	小学生	中学生
友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか。	100.6	100.0
学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか。	100.8	97.4
学級会などの話し合いの活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめていますか。	96.4	95.1
今年度平均	99.3	97.5
【実践力】 獲得した知識・技能及び思考力・表現力を駆使して、粘り強く課題に対応し、行動する力	小学生	中学生
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。	100.6	101.3
「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。	94.0	90.4
学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか。【難しいと思わない割合】	106.3	114.1
学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができますか。	96.6	96.1
今年度平均	99.4	100.5



注) 質問紙調査は年度によって質問項目が変わります。そのため、数値は参考値となります。

Ⅵ まとめ

【教員の指導力の向上】

**全職員で、日常的な授業改善・指導改善を進めることが大切です。
そのために、さらなる教員の指導力向上を目指します。**

○小学校：全ての教科で全国を上回る結果を維持しています。

- ・夏休みを中心に、学校ごと、教員がNRTの結果分析を活かした指導改善に取り組んでいます。
NRTの結果分析支援を継続的に行ってきた学校では、学力向上の成果が表れてきています。

○中学校：しなのきプランを実施し、初めて国語Aで全国を上回りました。国語B、数学A、数学Bは全国平均に届きませんでした。全国との差が縮まっています。

- ・生徒質問紙調査等を活用し、生徒の意識を確かめながら指導の定着や指導改善を進めています。
- ・昨年度の11月から1月にかけて、市指導主事が訪問支援を行った学校では、日課の工夫や授業改善等に取り組んだ結果、学力の向上や、生徒の意識の向上が見られています。
- ・学力が改善傾向にある今こそ、全教職員で指導改善に向けて取り組むことが大切です。

改善の方向

- 各校では、質問紙調査や学校評価アンケート等を活用しながら、児童生徒の意識をとらえ、毎時間の授業改善を進めます。また、自分たちで課題を見つけて取り組む学習の充実を図ります。
- 次期学習指導要領の実施に向けて、市教育センター研修講座を一層充実させていきます。また、市指導主事が各校のニーズに合わせて訪問支援を行い、教員の指導力向上を支援します。
- 各校で効果があった取組については、学校への聞き取りやアンケート等で把握し、その取組を市全体で共有できるように発信します。

【学校間、家庭・地域との連携】

**みんなで力を合わせて、未来を担う子どもたちを育てることが大切です。
そのために、「育てたい子どもたちの姿」を共有し、連携を図ります。**

○基本的な生活習慣と学力の向上には、相関関係が見られます。

改善の方向

- 引き続き市PTA連合会と連携し、「長野市大人と子どもの心得八か条」の普及を図ります。
- 児童生徒と保護者がメディアとのつきあい方を一緒に考える資料として、「携帯電話・インターネット等についてのアンケート」(小5から中3まで実施)の結果を各校へ提供します。また、「親子の3ステップ」の普及を図ります。

○学校間で教育目標の共有化や、学校間の円滑な接続のための取組が進んでいます

- ・市教育センターの学力向上研修講座で、中学校区単位の取組について情報交換の場を設けてきました。参加者からは、「研修の場で、小・中の先生と一緒に話す機会はよい」という意見がありました。また、「中学校区全体で家庭学習の充実を図るには」といった悩みも聞かれます。

改善の方向

- 市教育センター研修講座で、家庭学習や連携に関する取組の成果と課題、進捗状況等について交流する場を設けます。また、小中連携の進め方や、学校間の家庭学習のつなげ方等について、市指導主事が各校や支会、中学校区単位の研修会に出向き、支援を行います。